

国税庁の取組について



国税庁ウェブサイトで税の仕組みや国税の仕事、税務手続きに関する専用ページを開設しています。

こちらの二次元コードからぜひご覧ください。

毎年、国税庁では「税についての作文」・「税の標語」を募集しています。

これは、将来を担う中学生の皆さんが、税に関することをテーマに作文や標語を書くことを通じて、税について関心を持ち、正しい理解を深めていただくという趣旨で実施しています。

今年、作文において湯沢町長賞を受賞した湯沢学園の生徒の作品を紹介します。

税についての 作文・標語 受賞作品

【湯沢町長賞】「私たちの未来に残る年金」

湯沢学園 7年 多々見 紀香 さん

「将来私たちは年金をもらえないかもしれない。」

SNSでその問題を見た瞬間、スクロールしようとしていた手を思わずとめてしまいました。まだ大人になっていない私たちが、何年も先の問題だと考えていた問題に今から向き合わないといけないと感じました。年金という言葉は知っていましたが、どこから年金が来ているのか、どうやって決まっているのか等の詳しい内容までは知りませんでした。調べてみると、年金は私たちが将来納める保健料や、税金から生まれていて、今の高齢者を支えるために使われていることが分かりました。つまり自分が払った分を自分でもらえる訳ではなく、「若者と高齢者が支え合う仕組み」でした。

しかし、同時に少子高齢化という大きな問題があるということも知りました。厚生労働省によると、昔は働く人が五人で一人の高齢者を支えていたようですが、今は約二人で一人、将来的には一・三人で一人を支えていくようになると考えられています。少子高齢化が進めば集まるお金も減り、今や昔のような年金制度を続けることが難しくなり、その結果受け取れる年齢が遅くなったり、金額が減ったりする可能性が高いと知りました。ですが、調べていくうちに完全に年金がなくなる可能性は低いということも分かりました。年金は高齢者の方の生活を守る制度なので、これを一気になくしてしまうと生活できなくなってしまう人も多いと思います。だから国はどれだけ形を変えたとしても年金制度を続けたいと思います。もしかしら、消費税や住民税などを増やして補ったり、将来開発されるような、人工知能が稼いだお金で年金制度を続ける仕組みになっていくかもしれないと思いました。私は年金がどのように変わっ

ても「若者と高齢者が支え合う。」という考えをなくしてはいけないと思っています。今の私たちは税金を納める側ではありません。なので大人はどれだけ税金を納めるのはいけないのか、税金を納めるのはどれほど大変なのかも分かりません。ですが未来のために税金や年金の仕組みを知り自分にできることを考えていくことはできるはずです。例えば将来のために貯金したりすることも大きい意味では将来を考え、年金や税金を考える、支えていくことにも繋がっていくと思います。

SNSでの言葉を見てから年金は大人だけの問題ではなくなりました。税金も年金も未来の私たちの生活に繋がっています。だからこそこれからはニュースや社会に目を向け、将来私たちが安心して年金をうけとれる社会になるよう、まずは大人になり、社会を支えられる一人になりたいです。